

「葦陽からケニアへ！夢をつなぐ！」

広島県立福山葦陽高等学校

1 取組の概要

本校では、各教科等の内容と関連付けながら他国の現状を学ぶとともに、日本との文化や習慣の違いに気づく異文化理解を中心に、国際理解や国際貢献等の視点に立った取組を行うことにより、自他を尊重し、平和を尊重する心や態度を育てることを目指している。

今年度、本校定時制職員のサムエル・N・ムチーニ氏及び地元ボランティアと連携し、ボランティア部を中心にムチーニ氏の出身国であるケニア共和国の状況について学ぶとともに、日本への留学等の教育活動への支援を目的に、校内でバザーを実施した。

また、地域の公民館と連携して地域から文房具の寄付を募り、ムチーニ氏及び地元ボランティアを通して、集まった物品をケニア共和国の学校に贈呈した。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校ではこれまで、国際関係の取組について組織的にはほとんど行われていない。生徒の多くも自分たちのごく身近な世界にしか興味を持たず、国際感覚が十分に育っているとは言いがたい。そのような状況の中、今年度後半には姉妹校提携を計画していたことから、学校全体で異文化交流を行う機運を高めていきたいという思いがあった。

英語科の授業ではALTが配置されており、美術科の授業等との連携を通して異文化に触れる機会を設けているものの、特定の学年の授業であり限定的なものになっている。

(2) 指導のポイント

- ☆ ボランティアの条件である自発性、無償性、公益性を生徒に意識させながら、さまざまな活動を行わせる。（付けさせたい力3）
- ☆ 1回かぎりの支援ではなく、継続的・発展的な支援となるよう、次年度も視野に入れながら校内外での複数回のボランティア活動を計画的に実施する。
- ☆ 全校的に異文化理解と国際意識を高めるために、生徒会とボランティア部を中心に年間を通じて複数の学校行事を活用する。（付けさせたい力2）
- ☆ 異文化に対する理解を進めることで海外への興味関心を喚起し、今後予定している米国ハワイ州の姉妹校等との交流等に反映させる。（付けさせたい力2）

3 本事例の指導計画

(1) ねらい

国際理解や国際貢献等の視点に立った取組を行うことを通して、自他を尊重し世界平和を実現するための視点、国際協力の態度を育てる。

(2) 対象学年 全学年

	主な学習活動	指導上の留意事項
第一次 5月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動のスタートとして、地域の企業のイベントにボランティア部として参加し、校内での展示・出店を前提に、ケニア共和国についての学習を深める。 ・ケニア料理、物産品の販売を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外で他国の物品を販売することの意味を理解させ、6月に実施する校内での販売に向けて、異文化理解を進める。 
第二次 5月下旬～ 6月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭展示のための資料を、ボランティア部で作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケニア共和国の概要、教育制度、学校の状況について模造紙にまとめさせる。
第三次 6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭において、生徒会と連携しながら、ボランティア部による展示及びケニア料理と物産品の販売を行う。 ・町内会長、公民館長等の地域からの参加を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの生徒に活動を認知させるためにも、展示・販売だけでなく、校内を巡回して販売する等の工夫を行わせる。 
第四次 6月下旬 1月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館に協力を依頼し、使用しない文房具等を収集し、ケニア共和国へ贈呈する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が公民館長から寄贈を受けることで、地域とのつながりを意識させる。 
第五次 11月上旬 ～中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行こう週間」に実施する生徒会主催の文化行事「あしび祭」にボランティア部として展示を行うと同時に、ハワイ姉妹校の展示コーナーを設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、ボランティア部の活動を地域に広く公開する。 ・ケニア共和国の学校への支援、ハワイ姉妹校交流を通じて、生徒の国際感覚を養うとともに世界平和について考えさせる。

4 生徒の反応（授業後の感想等）

- 葦陽祭の準備で、ケニア共和国について調べたり、模擬店を出す準備をしたりした時に、多くの新しい発見がありました。当日は、校内を回ってケニアの郷土料理を売りましたが、多くの方がカレー等を買ってくださりとても嬉しかったです。
- 物を売ることを通して、お金を得ることの大変さが分かりました。ケニアの物品を日本の高校生が販売したので注目されましたが、人の優しさに触れる場面も多く、自分自身にとっていい経験になりました。自分たちが販売して得たお金が、ケニアから留学している人たちのために少しでも役立てば嬉しいです。
- 公民館からたくさん文房具をいただきました。地域の方からの善意をケニアの学校に届けることで、少しでもお互いの理解が進めばいいと思いました。